

2021年度

保育科の教育活動に関するアンケート

(卒業年次アンケート 分析結果)

1. 授業（学修）に関すること

卒業年次に対面授業の再開は叶ったものの、新型コロナウイルス感染症の拡大防止策により、本年度も制限のある中での授業運営となった。その悔しさを吐露した意見も挙げられたが、本学で開講している科目数や種類（Q6）及び授業の時間帯や1週間の時間割の密度（Q7）に対する満足度は高く「やや不満」や「不満」と回答した学生はいなかった。

印象に残っている科目（Q8）は、造形や音楽などの「表現」に加え、保育内容「人間関係」や「環境」、保育内容総論などの演習科目も挙げられた。制約を抱えながらも実施した実践活動が学生の印象に残ったと思われる。ただし、同様の活動は、学修を深めたかった事項（Q9）としても挙げられており、学生の物足りなさもうかがえた。

授業に関する総合的な満足度（Q11）は、5点満点中4.61点と高く、有効回答のすべてが「やや満足」もしくは「満足」であった。

2. 学生生活に関すること

（1）教職員の学生対応やクラス制、友人関係に関すること

教職員の学生対応（Q15, Q16, Q17）に対する満足度は、いずれも5点満点中4.78点以上と高く、教職員と学生との良好な関係性やクラス制は、後述する「コマジョらしさ」の一つとしても挙げられている（「4. 総合的に振り返り」を参照）。

（2）施設や設備に関すること

その反面、バス（スクールバスを含む）の運行時間や本数（Q18）、学生食堂の充実度（Q19）については、一定数の学生が「やや不満」もしくは「不満」と回答した。対面授業と同様に学内施設の利用も再開されたが、コロナ禍以前の利用環境の再現には至らなかったことが理由と考えられる。

3. 就職支援に関すること

教職員の就職支援（Q26, Q27）に対する満足度は高く、いずれも5点満点中4.61点以上であった。また、就職ガイダンスやセミナーへの参加率も改善し、学生の半数以上が「毎回」参加したと答えた（Q28-1）。その満足度も5点満点中4.39点と高い。

4. 総合的に振り返って

Q30では、これまでの授業や学生生活などを振り返り、学生が抱く「コマジョらしさ」とは何かを尋ねた。その結果、「明るく、優しい」や「人に寄り添える」、「学生と教員との仲が良い」など、保育者養成校ならではの長特が多く挙げられた。この他、「遊び力」や「豊かな自然」など、本学のディプロマ・ポリシーや周辺環境の特徴が挙げられた。

Q29では、授業や学校生活に対する2年間の総合的な満足度を尋ねた。その結果、17名（有効回答者の95%）の学生が、「満足」もしくは「やや満足」と答えた（5点満点中4.61点）。この高い満足感に安座せず、引き続き、よりよい教育活動を展開できるように努めてまいります。